

東日本大震災復興支援 消防士 タスキリレー



3



2



1



4

東日本大震災からの復興を願い、全国の消防隊員有志が鹿児島市から宮城県石巻市を目指してタスキをつなぎ「消防士タスキリレー」が4月20日、廿日市市を通過した。

震災から1年となる3月11日に鹿児島市消防局をスタート。義援金を集めながら熊本、福岡、山口県を経て、広島へ。大竹市から託されたタスキを廿日市市消防本部の職員17人が、市内15km、4区間を走り、広島市消防局へタスキをつないだ。

福岡・広島・鹿児島などの消防隊員が、同じ仲間のためにできることはないかと実行委員会を立ち上げた。企画に賛同する隊員がプライベートな時間を使い、石巻市を目指す。赤いタスキ

キには、「東日本大震災復興応援支援企画 消防士タスキリレー」と刺しゅうがされている。

4区間全てを走った廿日市消防救助分隊長川本好忠さんは「ゴールの石巻市には、震災で行方不明となり、まだ発見されていない隊員が4人もいます。同じ仲間として、被災地に駆け付けたいという思いは誰もが持っています。被災地の一日も早い復興を願って参加しました」と話す。

被災地の仲間へ元気を届けようと託されたタスキは、参加者約5,000人で、19都府県約2,000kmをつなぎ、ゴールの石巻市には9月11日到着予定という。

1 非番の消防隊員が4～5人一組となり、1区間約4kmを走ってタスキをつないだ。2 被災地へのメッセージが書かれたノート。タスキと一緒に引き継がれていく。3 廿日市市へタスキをつないだ大竹市消防隊員と。4 市内を4区間に分け、タスキをつないだ。

編集後記

今月の特集は、「交通安全」。毎年、尊い命が悲惨な交通事故によって失われています。子どもにも交通ルールを教えることは、命を守る術を教えること。だと、取材先でお聞きしました。

子どもたちは、交通ルールを繰り返し、繰り返し、目と体と心で覚えるといえます。子どもたちを交通事故から守るために、まず大人がルールを守り、その姿を子どもに見せることが大切です。

ハンドルを握るときは、いつも心に余裕を持って、やさしい気持ちで運転を心掛けたいですね。

さて、暦は6月。夏へのカウントダウンが始まっています。しかし、日によっては寒暖の差が大きいこの時期。体調管理には十分気を付けましょう。

川辺

目の不自由な人のために

- 「広報はつかいち」のカセットテープ、デジタイズ図書、点訳本があります。
問合せ 廿日市市社会福祉協議会 ☎0294
- 音声読み上げのための「広報はつかいち」のテキスト版をホームページに掲載しています。
問合せ 広報統計課 広報統計係 ☎09121

広報はつかいち 発行 廿日市市 〒738-8501 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号 ☎0829@0001代・FAX0829@1059
編集 分権政策部 広報統計課 広報統計係
ホームページアドレス <http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/>

●市政ラジオ放送 FMはつかいち 76.1MHz
月～金曜日 8:40～8:55 13:10～13:25 17:10～17:25 土曜日 9:10～9:25

◆人口と世帯数 5月1日現在 ()は前月比
人口: 118,127人 (+127人) 男性: 56,681人 (+83人) 女性: 61,446人 (+44人) 世帯数: 49,095世帯 (+121世帯)